

# 防府で情報化施工見学会

## 市職員ら30人、精度など確認

大成ロテック

大成ロテックは5日、ステーション(TS)を防府市浜方で整備が進められている人工芝多目的グラウンドの施工現場で、自動追尾式トータル

見学会を実施した。見学会には、防府市職員な

ど行政関係者約30人が参加し、情報化施工のメリットや施工精度などを確認した。

見学会では、大成ロテック中四国支社の関口峰機械室長らが施工概要や情報化施工導入のメリット、情報化施工のシステムについて説明を受けた後、碎石をTS制御のモーターグレーダで敷均しを実演し、仕上がり面をTS検測機で実測して精度の確認をした。

人工芝多目的グラウンドは、防府市が発注し山陽建設工業・中興業JVが施工するもので、情報化施工を使用した路盤工や舗装工を大成ロテックが協力している。主な

施設概要は、整備面積約2万8000平方メートル、人工芝敷設2万4530平方メートル、駐車場4130



見学会の様子

平方メートル、観客席・タッグアウト各8基などを整備するもので、JFA規格のサッカーピッチでは2面分、ソフトボールなら4面分確保でき、駐車場は200台収容できる。

見学会に参加した市河川港湾課の寺迫宏さんは、「私たちが扱う工事で、これらの機械がどのように利用できるかを考えながら現場を見させてもらった。精度も良く、今後発注する工事でもどのように活用されていくのが楽しみ。また、モーターグレーダの車内を見学したが、機器などがたくさんあるわけではなく通常のものと大きく変わらなかった。しかし車内にはモニターが設置しており、そこで情報が管理されるなどオペレーターにとっても良いことだと思う」と述べた。

大成ロテックでは、グラウンドの舗装は高い平坦性が要求されるため、ミリ単位の高精度で施工可能な情報化施工を取り入れ、熟練した技術者の確保が難しい中、省力化や省熟練化を期待でき、さらに情報化施工の活用により、設計データ作成などの業務は、女性技術者の活躍の場を広げる一つのツールとして期待している。